



2022年4月28日放送

学薬アワー 2021年度全国学校保健調査集計結果報告

日本薬剤師会
理事 清水 大

今日は2021年度全国学校保健調査の結果の一部を、速報値として報告させていただきます。この全国学校保健調査は全国の学校における環境衛生活動の実績を把握し、その充実や改善に役立てる目的で昭和46年から毎年、調査項目を選定し、全国の学校薬剤師が各担当校において調査・回収し、日本薬剤師会学校薬剤師部会が集計・分析をしています。

2021年度の全国学校保健調査では、2020年度における「揮発性有機化合物・ダニ又はダニアレルゲン・騒音環境・新型コロナウイルス感染症対策」について質問をしました。また平成25年度から基本データの続きとして、同じ質問を継続して聞いています。

本調査の調査対象は、全国の大学以外の認定こども園を含む、すべての学校51,942校であり、これらの学校のうち回答のあった34,310校から、学校の種類等の基本データの欠落及び予備で返却された未入力シートによる集計不能を除いた34,237校を対象に集計を行いました。

はじめに学校薬剤師、学校保健調査の実施状況等、基本データ部分に関する集計結果について説明させていただきます。

まず学校薬剤師の年代は20代から80代以上の先生方が関わっています。全体として60代が25.6%、50代が25.4%、40代が22.7%、30代が12.5%、70代が11.2%、80代以上が1.3%、20代が1.2%でありました。

次に学校環境衛生検査は学校環境衛生基準に定められた全項目を実施しましたかについては「全ての項目を実施した」34.3%、「実施出来なかった項目が一部あった」62.9%、「まったく実施していない」2.8%でありました。

また学校への出校日数は何日ですかの設問に対しては「12日以上」14.0%、「11～8日」19.1%、「7～4日」40.5%、「3～1日」25.2%、「0日」1.2%でした。

以上が2021年度調査における基本データに関する集計概要でした。

次に2020年度における揮発性有機化合物の定期検査の実施状況について報告いたします。

キシレンの基準が2021年4月1日付で改正され870 $\mu\text{g} / \text{m}^3$ (0.20ppm) から200 μg (0.05ppm) に変更になったことを知っていますかの設問に対して「知っている」47.0%、「知らなかった」53.0%でありました。

揮発性有機化合物のうち、どの検査項目を行いましたかの設問では「ホルムアルデヒド」36.2%、「トルエン」19.5%、「キシレン」11.0%、「パラジクロロベンゼン」9.1%「エチルベンゼン」8.2%、「スチレン」8.1%、「行わなかった」63.7%でした。

検査の場所では「普通教室」51.6%、「音楽室」11.9%、「図工室」8.7%、「コンピューター教室」27.9%、「体育館」2.4%、「その他」29.0%でした。

ホルムアルデヒドの検査はどのように行いましたかの設問では「基準で定める高速液体クロマトグラフィーで行った」57.8%、「その他の方法で行った」41.0%でした。

ホルムアルデヒドの検査結果は基準に適合したかの設問では「基準値の1/2以下であった」73.7%、「基準値の1/2を超えたが、基準値以内だった」19.0%、「基準値を超えた」7.4%でした。

トルエンの検査はどのように行ったかの設問では「基準で定めるガスクロマトグラフィー質量分析法で行った」75.0%、「その他の方法で行った」24.0%でした。

トルエンの検査結果は基準に適合したかの設問では「基準値の1/2以下であった」97.3%、「基準値の1/2を超えたが、基準値内だった」2.2%、「基準値を超えた」0.5%でした。

次に教室等のダニ又はダニアレルゲンの検査実施状況についての設問では検査を「行った」63.2%、「予算がなくて検査しなかった」2.7%、「計画がなくて検査しなかった」29.4%、「その他の理由で行わなかった」4.7%でした。

検査対象は「寝具」81.8%、「カーペット」43.2%、「畳」16.3%が主な対象場所でした。基準に適合しましたかの設問では「全て適合した」82.3%、「適合しないものがあつた」

17.7%でした。

ダニ又はダニアレルゲンの不適合結果について、学校は指導・助言によって対策を講じたかとの設問では「全て講じた」71.9%、「一部講じた」20.7%、「講じなかった」1.7%、「わからない」5.7%でした。

次に教室等の騒音環境の検査の実施状況についての設問では検査を「2回行った」8.4%、「1回行った」12.2%、「省略規定により行わなかった」21.4%、「計画がなくて検査しなかった」51.1%、「その他の理由で行わなかった」7.0%でした。

騒音の検査の不適合結果について、学校は指導・助言によって対策を講じたかとの設問では「全て講じた」42.6%、「一部講じた」24.4%、「講じなかった」13.3%「指導・助言に基づく対策の状況がわからない」19.6%でした。

検査結果の記録を保存していたかとの設問では「全て保存していた」96.1%、「一部保存していた」3.4%、「保存していなかった」0.5%でした。

次に新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策について情報提供を行いましたかとの設問では「自ら行った」43.5%、「問い合わせがあったので行った」46.2%、「行わなかった」21.5%でした。

どのような項目を情報提供しましたかとの設問では「換気」77.9%、「消毒」90.5%、「手洗い」62.6%、「マスク等」47.8%が主だった回答でした。

以上を持ちまして、2021年度全国学校保健調査の速報に関する説明を終わらせていただきます。

結びになりますが2021年度も新型コロナウイルスが継続して蔓延する中、本調査を実施するにあたり、ご指導ご鞭撻を賜りました文部科学省初等中等教育局健康教育調査官並びに各都道府県市町村等の教育委員会に深く感謝申し上げます。